

洋書輸入協会会報

VOL. 5

NO. 11

(通巻55号) 昭和46年11月

理事会報告

10月11日(月)

(一) 総務委員会より。(柴田氏)

1 9月分収支計算、予算対比表検討。今年は懇談会の開催が多かったため、総会及び懇談会費が年間予算34万円に対し、既に30万円余を使用。

……検討の結果承認。

2 準会員と賛助会員の新設に対する規約改正案の検討状況経過報告。

……更に検討を続けることとする。

(二) 渉外委員会より。

Pergamon 社より円建てインボイス到着。ポンド建てとするよう渉外委員会より訂正申入れ文を送附することとする。

同時に各社よりも抗議文を送附することとする。

(三) ㈱トッパン渡辺氏入院の件。(井出氏)

中野のサナトリウムに入院の由、各社より随時見舞うこととする。

(四) 丸善福田氏より。

1 渡辺氏起草の司氏叙勲お祝い文は、司氏へ確かに届けた旨の報告。

2 司氏は、今回丸善の会長となられたが、洋書輸入協会の理事長職には、引き続きとどまられる由。

(五) 円問題に関する情報交換。

10月26日(火)

(一) Pergamon の円建て問題の検討。

(二) 通関委員会より。(柴田氏)

Playboy 直送分が税関に留められている件。予約取扱いをやめ、コピーセールに切り替えるようお客様にすゝめることとする。

(三) 洋書交換委員会の件。(服部氏)

ダイレクトメールを行い、反応のあったお客様のカード化のために、2乃至3万円程度の費用を支出願いたい。

……総務委員会の検討事項とする。

(四) 雑誌補充委員会より。(三洋)

欠号補充に関するデーター提出。更に続行したい。

(五) 円問題に関する情報交換。

11月4日(木) 臨時に開催。丹羽氏出席。

(一) 文教委員会設置決定。

委員 丸善、紀伊国屋、国際書房、極東書店、南江堂、ナウカ、緑書房。

(二) 米国港湾ストの現状報告。(柴田・相良氏)

(三) 通関方法改善に関する提案。(丹羽氏)

……通関委員会にて検討することとする。

(四) 円問題に関する情報交換。

洋書交換委員会だより

不順な天候、冷たい雨も、両陛下が欧州よりお帰りになるとからりと晴れ、10月15日恒例秋の洋書まつりの開幕です。当日、界限は朝から人波に溢れ(これは日本シリーズか)定刻開場とともに、新調の横断幕の下、例によって待ちかねていたお客様達が入り始めました。既に4回目、事務的にも手馴れたもの、高木さん(関東書籍)の迷う事なき指揮の下、受附・清家さん(北沢本店)レジ・山口君(ナウカ)会場副主任・清水君(美術出版社)さても、何時ものおなじみの顔ぶれ、会場風景も定着したもの、ワイワイ、ガヤガヤ、坦々たるうちに、16日、17日と前回に引続いて、今年も現場売上最高記録を達成しました。ドル・ショックのドマンナカ、ドカッと押し迫った感じの洋書まつりも、神田の秋の風物誌として爽やかに幕を閉じたのです。

では一ツ、いくつかの問題を取上げてみましょう。

(1) もっと売上が上らないものか。

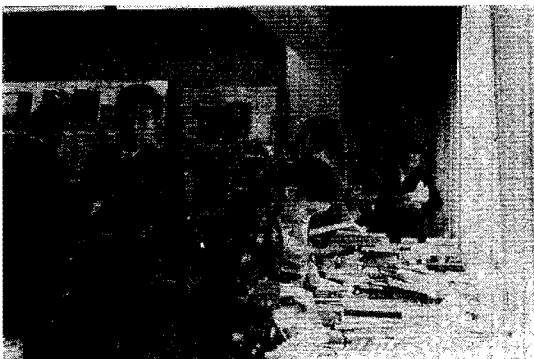
(イ) 商品が欲しい。目ぼしいものは売れてしまうので

す。折角固定したファンがついているのに、三日目には目標が無くなつては困るのです。連続追加できるよい商品が欲しい。

(ロ) もっとお客が欲しい。お客はいくらあってもよいものです。更に広い範囲内でのお客様が会場へ集められないか。第二回目は大学紛争で学生、今回はドル・ショックで外人、平和な日本を待望すると同時に、あゝこの秋日和の下、フラリ散歩のお客をつれて来る事は出来ないものか。

(2) カタログには随分お金をかけています。又、カタログを積極的に利用している方は随分売上が上っている事も事実です。協会に到着する注文ハガキは判りますが、自社の注文ハガキを使用したり、電話其の他の連絡の時は全然補足不可能です。どの位の効果が上っているのか、何とか判る方法はないものか。

(3) 合同セールだけでなく、洋書のまつりに相応しい社会的な事が何か出来ないか。展示会とか、講演会とか、映画会とか、又は洋書輸入の仕事の複雑さを知ってもらう説明会とか、パーティーとか。



(4) 本というものは不思議なもので、当社では絶対売れないものが、他社ではチャンとマーケットを持っている事がよく判ります。一つの創造物としての書物をよりよく活かす為に何か手早く、簡単な法がないものか。

(5) 本来この委員会はどうも少し人的に余裕のある委員を集めるべきではないか。労働力、手間は相当なもので、委員はむしろその世話に忙がしくて、必ずしもよい結果を得られぬ事になります。委員会そのものと自社担当の現場とを分担できるようでないと思ふてはならないと思ひます。

さて、来年は理事の改選です。委員会も当然組替えがあると思ひます。洋書まつりそのものも理事長丸善さんが来年度より参加を正式に発表（9月18日懇談会）されましたので、名実ともに充実した洋書輸入協会主催となります。

我々はレールを引きました。これから後は、多分、何か新しい感覚の様なものが必要です。売上げも売上げですが、何も今までの型式、態度に固執する事はありません。書籍にまで紹介されている洋書業界の秋の行事の発展です。新しいアイデア、新しいエネルギー、新しい視覚ポイントが必要です。

新しい委員会に将来の洋書まつりの輝やかしさを期待しつつ、我々は4年間の長い任期を終へたいと思ひます。皆さん、長い間、有難うございました。次の皆さん、明日は

貴方がたのものです。どうかしっかり頑張って下さい。

最後に4年間の間協力された各委員の分担横顔等をご紹介します。

福島氏（極東書店）大まかな調定委員

PR、新聞、銀行、印刷等担当

北沢氏、清家嬢、新妻君 全力投球委員

カクログ作成及び最多配布担当

高木さん（関東書籍）当日大奮闘委員

現実、現場、今すぐ担当

原君（原書店）本郷地区論説委員

文化厚生 友愛と親和担当

山口君（ナウカ）沈黙実益委員

レジスター担当

井手君（日本出版貿易）小力投球委員

委員会場提供担当

清水君（美術出版）不在実行委員

ポスター・イラスト 当日担当（除TV放映中）

星野君（イタリア書房）最小労力最多利益委員

後日洋書まつり宣伝担当

（国際書房 服部 Jr. 記）

文化厚生委員会だより

秋爽やかな10月26日午後6時半より、協会主催のダンスパーティーが神田一橋 如水会館で開催された。

一昨年春に次いで二回目の催しであったが、今回は若い人達の要望に応じて、曲目にゴーゴーを加えたり、代表出版社の方にも広く参加を呼びかけるなど、文化厚生各委員

の努力の甲斐あって、業界多事多難の折にもかかわらず、若い人達を中心に二百人近い参加者があり盛会であった。

各位の御協力に改めて御礼申し上げます。

（上杉 U. P. S）



一見若い人ばかりのようだが、ロマンスグレイからテカテカまで、多勢の顔が見えた。



バンドはプレーボーイ。ホールが広過ぎて遠くの方はかすんで見える。

アメリカの古本屋

慶応義塾大学、文学部教授 大橋吉之輔

わが国でもそうであるが、一口に古本屋さんといっても、いろいろな種類がある。だが、次に述べるような古本屋さんは、ちょっと珍しいのではなかろうか。

長年のあいだ、私はあるアメリカ作家の著作物を探しもとめていた。その作家は1920年前後に活躍した人で、著名だったが、不思議なことに、その著作物は一、二点をのぞいてはほとんど絶版になっており、全部集めることは非常に困難だった。それでも、何年かたつうちに、その大半は集めることができた。だが、いちばん欲しいものが何点か、どうしても手に入らなかった。(もちろん、大学の図書館あたりにいけば、みんな読むことができるのだが、悪い癖で、その作家のものは全部自分のものにしたかったのである。) いろいろ考えて、Saturday Review 誌に三行広告を出すという投資もしてみたが、反応はなかった。いや、反応はあったが、見当ちがいの方面からばかりで、以後、ダイレクト・メールによる宣伝物などがいっそう増える結果になっただけであった。

そういったわけで、あちこちの都市や町を旅行したりするとき、かならずどんな古本屋にも立寄って、その作家のものを訊ねてみることにしていたが、イェール大学のあるニュー・ヘイヴンの町にいったときのこと、例によってふつうの古本屋さんに入っていったら、訊ねてみたら、そこ若い主人が、この近くにもう一軒古本屋があるから、そちらへ行ってみたらと場所を教えてくれた。教えられたところへ行ってみると、そこは二階建ての、いろいろな店が棟割長屋のように並んでいるコンクリートの建物の一割で、古本屋であることを示す字が書いてあるドアをあけると、すぐに二階へ階段をあがるようになっていた。

階段をあがってみると、六畳間ぐらいの広さの事務所になっていて、タイプライターののった大きな事務机が一つあるが、本らしいものの姿はどこにもない。人も、事務所

の主人らしい中年の紳士がただひとり机に向っているだけで、ほかには誰もいなかった。自分がなにか間違ったことをしたのではないかととまどいながら、おずおずとその紳士に用件を告げてみた。するとその紳士は、微笑をうかべながら立ちあがり、どうぞ、といって隣の部屋へのドアをあけてくれた。

その部屋も、六畳間ぐらいの小さな部屋だったが、こちらにはきれいな応接セットがおいてあり、壁一面の本棚に200冊ばかりの本が並んでいた。どうみても多くの本ではなかったが、タイトルをみておどろいた。おどろいたというより、思わず息をのんだといったほうがいいかもしれない。1920年代、30年代の英米の小説家のうちでも、文学史的にその評価が高い僅かな数の作家の、きれいな初版本の作品だけが整然と並んでいたのである。私が探しもとめていた作品も、むろんその中にあった。私はコーヒーの接待をうけながらすっかり興奮してしまい、前後のみさかもなく200ドルばかりの買物をその場でしてしまった。そして、自分のよろこびを主人に告げると、主人は値段が高くして申し訳ないが、作家の数をかぎり、きれいな初版本ばかりを集めるように努力していると、どうしてもこれぐらいの値段になるのだと説明し、買ったものをすぐに日本に送るのなら、荷作りと送料は自分のサービスにしようと申してくれた。そして私の目の前で、ボール箱にしっかりと荷作りし、それから、私をつれて郵便局にいった。そして、あちらでは珍しいことだが、わざわざ書留小包にして、送ってくれたのである。

だが、それでも一点だけ入手できないものが残った。思いあまって、その作家の未亡人に失礼をも顧みずに手紙を書き、なにか方法はないだろうかと訊ねたら、たまたま贈った人が死んで送りかえされたのが一冊あるからと、わざわざ送っていただいたのだった。

手持ちカメラを使つての簡単な複写 (No.10よりつづく)

鈴 木 和 夫

(3) 接写レンズ又は用具：通常カメラが被写体に接近出来る限度は60cm位であり（これは50ミリの標準レンズなら、ほぼA4判の大きさを写し込める）、それ以上に接近する必要がある時は、レンズの焦点位置を変えるために何等かの補助具が必要となる。

(イ) 近接用レンズ。主としてレンジファインダーのカメラに使用するもので、各カメラ専用のものが市販されているから、それをフィルター同様にレンズ前面に固定して使用する。此のアタッチメントレンズを使う場合、焦点距離は常に一定であるから、それが何十cmであるかを確認し、被写体との距離を正確に測定すると共に、その画角（タテ・ヨコ何十cmが写しこめるか）を試写によって知って置く必要がある。

(ロ) 接写用リング又はチューブ。レンズ交換式一眼レフで接写する時に使う比較的安全で手軽な道具である。カメラボディとレンズとの間に筒をはさむことによって、一般に数種類の長さのものが一組となっており、接写距離によってそれらを組合せて使用する。

(ハ) マイクロレンズ。接写専用のレンズで前二者に比し遙に高価であるが、反面こと接写に関しては万能である。また普通のレンズと同様に使用も出来、解像力も優れているから、もし何本かのレンズを揃えたいという方には広角や望遠よりも先におススメしたいレンズである。

(4) 照明：100W電球でも間に合うが、出来れば少し強力な150～300W程度の写真電球が欲しい。それをクランプホルダーという電球保持具に装着して使用する。一般に印刷物の複写には2燈を左右同距離から、写そうとする面に45度位の角度で光が当るようにセットする。つまり印刷物面にむらなく光が当るようにするわけで、被写面の上に定規などを立て、その左右に生ずる影が同じ濃さであれば良いことにする。

(5) カメラ保持具：複写の場合 $\frac{1}{4}$ ～1秒位の露光をするのが普通であるから、カメラはしっかりと固定しなければならない。専用の複写台が使えれば問題はないが、より簡単な複写ポッド（四本脚の台上にカメラをレンズを下向にし

て装着するもの）、或は普通の三脚でも間に合わせる事が出来る。これらの簡易装置を使う場合、カメラ位置は動かすことが出来ないから、印刷物の下に本をはさむことによって高さ、つまりカメラと被写体との距離を調整すればよい。少し馴れてくれば、A5の印刷物には〇〇百科辞典を何冊、というように条件がきまってくる。

(6) その他：本を開いた状態で複写しようとする時に案外手こずるのが頁面を平面に保つことで、その解決法の一つとしては厚手の板ガラスをのせることである。しかしガラスを使うと今度はカメラボディのピカピカ光る角などがガラス面に反射するというトラブルを生ずることもある。週刊紙大のボール紙に墨を塗るか黒紙を貼って、その中央にカメラレンズの直径より一まわり大きい円い穴をあけ、シャッターを切るときカメラ面を覆うようにすれば、このようなトラブルを防ぐことが出来る。

マイクロフィルムを使って複写をする時、最も肝要なのは露光条件をデーターによってつかむことである。露光計の示す露光時間の通常4倍位を基点とし、それから2段階づつ露光を増して3コマ撮影する。仮に露光計が $\frac{1}{30}$ 秒を示していたら $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、1秒の3コマを撮るわけである。被写体が平面なのだから絞りは5.6～8位で充分で過度に絞りこむ必要はない。この撮影データーを記録しておき、現像後フィルムをチェックして適正露光をつかむ。通常2～3本のフィルムを撮れば同一条件下の適正露光値はつかめる訳である。しかしそれが決った後でも1コマだけの撮影は禁物で、露光を変えて最少2コマは撮るように習慣づけることが必要である。又一般にカメラのファインダーに見える面は、実際にフィルムに写される面の80～90%程度であることも承知し、使用カメラのファインダーロスを把握しておかないと、余計なものがフィルム面に入り込んでプリントの時にそれをカットしなければならない、という面倒なことになる。

これから始めて複写をやろうという方には、あまり「簡単」ではない記述になってしまい看板に偽りを生じてしまったことをお詫びする。

会 員 紹 介

株式会社 信 山 社

1927（昭和2）年はじめて出版された岩波文庫が、「読書子に寄す」という発行所の言葉に「吾人は範をかのレクラム文庫にとり」とあるように、この文庫をひとつの理想としていたことは、いうまでもなからう。故岩波茂雄氏1935（昭和10）年の世界旅行のさい、ライプツィヒのレクラム社に3代目にあたる Dr. Ernst Reclam を訪ねているが、本年10月には信山社の社長松本作雄氏が4代目の Dr. Heinrich Reclam を、いまはシュトゥットガルトにあるレクラム社に訪ねられた。（ライプツィヒにもレクラム社があって、ここでも独自のレクラム文庫を出版していること、1967年のレクラム文庫100年にあたっては、双方で100年史を出していることは、本紙の読者なら御存じであろう。）レクラム社—岩波書店—信山社という歴史的な関係があるのである。

1959（昭和34）年9月1日に岩波書店小売部の事業をひきついたのが信山社である。当時の店はいわば岩波書店発祥の地にあった。1967（昭和42）年9月には、新装なった岩波神保町ビルの地階と一階とに、岩波書店の全出版物と他社のすぐれた出版物を陳列する知的雰囲気にあふれた新店舗が落成した。洋書がおかれだしたのはその頃のことであるが、故岩波氏の遺志をつぐ松本氏は、1969（昭和44）年春以降、レクラム社との特別契約によって、レクラム文庫の豊富な在庫をもち、小売および卸業務をはじめられた。こうして岩波文庫とレクラム文庫とが同じ店頭にならぶことになったのである。

故岩波茂雄氏にはミレーの「種まく人」を社章とされたが、岩波書店に奉職されてからでは40年をこす松本氏は、故人の遺志を守り、岩波書店の出版物とレクラム文庫とによって文化の種をきょうもまかれているのである。

ひろく一般からの投書を募ります！

テーマ： 洋書輸入協会にのぞむ

- 字 数：400 字内外
- 投稿メ切：毎月末
- 誌上とく名を認めます
- 取捨及び多少の加筆訂正については会報委にお任せ下さい
- 掲載分には薄謝を進呈
- 送 附 先：協会事務局宛

American Book Company

英会話学校や、大学・短大の英会話クラスでよく使われるテキストに Let's Learn English というのがある。これの版元が American Book Company (略してABC—以後ABCと書く) である。

この事でもわかる通り、ABCは米国有数の教育出版社である。全米はもちろん、世界に Representative をもっている (日本では Litton Industries の一部門として、桑島春彦氏が代表している)。

ABCは、1890年4月、それまであった教育出版社4社が母体となり統合設立された会社である。母体となった4社は、D. Appleton & Co. (N. Y.)、A. S. Barnes & Co. (N. Y.)、Iverson, Blakeman, Taylor & Co. (N. Y.)、Van Antwerp, Bragg & Co. (Cincinnati) の4社で、設立2ヶ月後には、Harper & Brothers の School Publication 部門をも取得して更に基礎を大きくしている。

その後ABCは、母体 Appleton Barnes 等の Agent Force をフルに活用し、順調に業務をのぼし、10数年後には、New York, Chicago 等の中小の出版社10社を併合した。それと共に企業としても1908年 New York 州の法律にもとづき、再編成、再整備された。以来ABCは、本質的に Textbook 一本に Policy を定め、世界的教育出版社として定着している。

同社が手がけた Textbook の中に Webster Elementary Spelling Book というのがある。これは同書の著者 Noah Webster が、やがて、Merriam より American Dictionary of the English Language (1828: いわゆる Webster 大辞典の First ed. で、この辞典は、現在 Johnson Reprint Co. より復刻されている) を出すきっかけになるもので興味深く、ABCの Textbook の Tradition を知る上にも面白いものがある。

Noah Webster は1758年 Connecticut に生れ、Yale 大学を卒業し New York で教職についたのであるが、当時米国の国語教育で当然行はれていた British English に Anti の旗を上げた一人である。新大陸米国の地で生きている米国の英語を教育の場に確立しようと考えたのである。即ち、Spellingの単純化、発音の国語化 (colloquialize)、アメリカ人による語の定義、アメリカ人による正用法、等々を体系づけ著す事であった。彼はそれを Textbook にまとめる事によって、教育の現場に持込む事をもくろんだ。最初の出版は1785年頃と推定されているが、大変な反響を示し、1818年までに500万冊、1847年までに2,400万冊、実に年平均40万冊を売ったと記録にある。ABCの前身の一つ D. Appleton がこの本の権利を取得したのは、1840年であるが、当時の同社社長 William H. Appleton をして、“世界で Bible を除き、これ以上の Best Seller はない”と言わしめている。かくして、この Text, Webster Elementary Spelling Book はABC社の名の下にも版を重ね、今日までに一億部を売り、今もって死んではいない。

1967年3月、教育産業の一環として、有力な出版社をその傘下に求めていた多国籍複合企業 Litton Industries との間に意見の合致を見、ABCはこれに合併する事に同意した。これは Holt, Rinehart の C.B.S. Random House の R.C.A. への合併に見られる様で、1967年前後におこった、米大企業 (特に Electronics 関係企業) の教育産業に対する将来性へ比重の動きの具体的な現れの一つと解する事が出来よう。合併後のABCは Litton Industries の教育出版部門に属し、目下の所内容的には従来と変らぬ活躍を続けている。しかし、この合併によって、一応従来のABCの偉大な時は終り、新しい時代のABCにおいおい変らざるを得ない事は明らかであろう。合併時のABC社長 N. Samuels もそう記している。

海外ニュース

「CBS が Popular Library を買収」

Columbia Broadcasting System は、\$9,650,000 のキャッシュで、Popular Library の買収を終了した。Popular Library は、以前 Cadence Industries の系列会社であったが、今後は CBS/Education and Publishing Group の一員として出版活動が続けることになった。

「アメリカの新出版社 3 社紹介」

(1) Black Orpheus Press (Headquarters: 1364 Locust Road, N. W., Washington. Warehouse: 322 New Mark Esplanade, Rockville, Md. 20850). 1971年7月創立。アフリカや黒人の問題を主題としたシリーズや単行本を専門分野とする模様。1971年12月から1972年7月までの間に最初の12点を出す予定である。最初の本は、René Maran の “Batouala: A True Black Novel” で、1938年版の初の英訳である。他の6点は、当初フランス語で出版された、アフリカの若い作家のもので、残りはヨーロッパやアメリカの学者のアフリカ研究書である。

この Black Orpheus Press は、ワシントンに本拠を置く、各種メディアの製作、販売を行っている、多人種の会社、Media Intellectics の子会社で、経営者やスタッフは、いろいろな国籍の白人や黒人から成っている。きわめて特色ある出版社と云えよう。

(2) Keats Publishing, Inc. (212 Elm Street, New Canaan, Connecticut 06840)

Pyramid Publications, Inc. の前社長である Nathan Keats 氏が設立した新会社で、特に保健、宗教その他の特殊分野のハードカバーとペーパーバックのオリジナルを出版する模様。

Keats 氏は、Pyramid 社に在職中、Special book division を創設、宗教書のマス・ペーパーバックの新製作技術を導入したり、保健書のシリーズを始めたり、箱入りセットを開発した敏腕家として知られている。

(3) Royaltan College Press. (Royaltan College School of International Affairs, South Royalton, Vermont 05068)

Royaltan College は、従来 Simon & Schuster 社などによって出版を行ってきたが、このほど出版局を設立し、独自で出版活動を行うことになった。その最初の出版物は、Chang Hsin-hai 博士の “America and China” で、これは1965年に Simon & Schuster から出されたものに改訂・増補を行い、中国問題の権威、Edger Snow の序文を加えた版である。

同社は、国際関係の分野のものを主体に出版を行うが、上記の本のように、重要であるが、一般向けのしない本にも大衆の目を向けさせようというのが狙いのようなのであ。 (Publishers' Weekly, 10月11日号、10月18日号より)

— 紀伊国屋書店提供 —

ニュース

- 11月中旬英国 Macmillan and Company Ltd. の Export Manager. Mr. Adrian Soar 来日。
- 11月下旬米国 Wiley 社の Mr. Robert B. Ellis 来日。
- 11月下旬英国 Penguin Books Ltd. の Mr. John Blake 来日。

会員の横顔

原書店

原 広 美



毎度古い表現で恐縮だが、「玉のような男の子」と云いたいのが今月御紹介する原書店の二代目広美氏である。仕事に携わって既に十数年、協会では洋書交換委のメンバーとして活躍していただける彼をつかまえて、このような表現をするのは失礼かもしれないが、今や70を少し越された父上などの目から見れば、彼は赤ん坊の時から今日までずっと「玉のような」お子さんではなかったのだろうかと思われる。

昭和12年、本郷の生れ。高校生の頃からすでに家業を手伝い、戦後の民間貿易再開前の一時期、英国大使館が英書の斡旋をした頃、配給(?)をとりに行った覚えもあるという。明治学院大の商科に入った頃からは車を乗り廻せる魅力もあって、学業と家業を半々にやり始め今日にいたる。「うちは万事ヨーロッパ方式でのんびりやることにしていますから」と云われるが、「値引を一部の客だけにすることは他のお客に申し訳ないから、うちは絶対にやりません」とか、「本郷の商人の中には、当店は東大の先生方だけがお客でございといった顔をするのがあって気に入らない」と云った言葉の端々に、正義義としての彼の面目が窺われる。

実は今回の取材は原さんの御好意から帝国ホテル内の落ち着いたパーでしたのだが、水割りのグラスを傾けながら、飲むこと以外に好きなことは?と伺ったら「喰べることです!」と返事がはねかえって来た。まことに気持ちが良い。御家族は奥様と一女二男、恵まれた家族と恵まれた体力は、老舗原書店をがっちり支えている感がある。(自宅:文京区本郷5-29-13,赤門アビタシオン808)

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

㈱ 医 学 書 院

☎ 814-5931~5

Lea Febiger, Philadelphia

Marble, A. et al.: Joslin's Diabetes Mellitus.

11th ed. 884 pp. with figs. 1971 ¥13,000

Burch, G. E.: A Primer of Cardiology.

4th ed. 350 pp 228 figs. 1971 ¥3,800

The C. V. Mosby Co., Saint Louis

Rusk, H. A.: Rehabilitation Medicine.

3rd ed. 696 pp. 231 figs. 1971

¥8,400

The Williams & Wilkins Co., Baltimore

Taylor, E. S.: Beck's Obstetrical Practice.

9th ed. 700 pp. 740 figs. 1971 約¥6,800

Dilts, P. V. et al.: Core Studies of Obstetrics and Gynecology.

248 pp. 62 figs. 1971. ¥3,400

La Du, N. et al.: Fundamentals of Drug Metabolism.

750 pp. 1971 約7,900

Marcel Dekker, Inc.: New York

Baserga, R.: The Cell Cycle and Cancer. (The Biochemistry of Disease Vol. 1)

481 pp. with figs. 1971 ¥11,800

Farber, E.: Concepts of Biochemical Pathology. (The Biochemistry of Diseases Vol. 2)

250 pp. with figs. 1971 11月出版予定 約¥5,000

Georg Thieme Verlag, Stuttgart

Hegglin, R.: Differentialdiagnose innerer Krankheiten.

12. Aufl. 1,020 S. 790 Abb. 1971 12月出版予定 約¥11,270

Decker, K. & Backmund, H.: Paediatric

Neuroradiology.

193 pp. 153 figs. 1971 12月出版予定 約¥7,930

㈱ 極 東 書 店

☎ 265-7531

Verlag Detlev Auvermann KG, Glashütten im Taunus

Atzrott, O., Sozialdemokratische Druckschriften und Vereine verboten auf Grund des Reichsgesetzes gegen die gemeinfährlichen Bestrebungen der Sozialdemokratie vom 21. Oktober 1878.

Berlin, Cal Heymanns Verlag 1886. Mit Nachtrag 1888. VII, 111/48 S. Nachdruck 1971. Leinen. ¥3,300

Turgot, A. B. J., Oeuvres et documents le concernant. Avec biographie et notes par Gustave Schelle. Paris, Librairie Félix Alcan. 1913-1923. 3,620 p. 5 vols. Nachdruck 1971. Leinen.

Sub.-Preis ¥80,500

Zentralantiquariat der DDR, Leipzig

Stegmann, C./C. Hugo, Handbuch des Sozialismus. Zürich 1897. Mit Nachwort von A. Jäger. IV, 878 S. Nachdruck 1971. Leinen. ¥14,000

Der Volksstaat. Organ der Sozialdemokratischen Arbeiterpartei und der Internationalen Gewerksgenossenschaften. Jahrgang 1-8 (2. 10. 1869-1876). 8 Bände. Leipzig 1869-1876. Nachdruck 1971.

Halbleinen. ¥195,000

㈱ 南 江 堂

☎ 811-7234

Huber, A.: Eye Symptoms in Brain Tumors, 2nd Ed. 1971 376 pp. (C. V. Mosby Company, St. Louis)

¥13,000

Newton, T. H. & D. G. Potts: Radiology of the Skull and Brain, in 3 Vols.

Vol. 1. (C. V. Mosby Company, St. Louis)

ca ¥30,000

ナ ウ カ ㈱

☎ 981-5261

VEB Max Niemeyer Vlg. 東独 All Titles

㈱ ト ッ パ ン

☎ 833-2111

W. H. Freeman & Company

全点 250 点、来年 1 月 1 日より総代理店となります。

ご好評発売中

ドイツ社会主義党機関誌 Die Neue Zeit

Wochenschrift der Deutschen Sozialdemokratie

Redigiert von K. Kautsky und H. Cunow

Jg. 1—41. Bd. II, Heft 1—10

Berlin 1883—25. August 1923

Neudruck 1971—1973 in 74 Bänden

Verlag Detlev Auvermann KG, Glashütten im Taunus

第1回入荷 Jg. 1—8 1883—1890 予約価格 ￥115,000

『ノイエ・ツァイト』のリプリント版が刊行されることになりました。このリプリント版は、みなさまの御購入の便宜をはかるため、出版社と協議の上、1971年から3年間にわたって発行されるものです。ぜひともこの機会に全巻をおそろえいただきたいと存じます。

第1回分として1—8巻が発行されました。発行部数にも、また入荷部数にも限りがございますので、お早めにお申し込みいただきたいと存じます。

次回は Jg. 9—12 (8 Bde.) が刊行される予定です。

ご一報しだい、リーフレットをさしあげます。

72年1月入荷 ご予約承り中

Der Volksstaat (人民の国家)

Organ der Sozialdemokratischen Arbeiterpartei und der Internationalen Gewerksgenossenschaften (seit Juni 1875
Organ der Sozialistischen Arbeiterpartei Deutschlands).
Jahrgang 1—8 (2. 10. 1869—29. 9. 1876).

Redaktion: Wilhelm Liebknecht

Mit der Beilage “Der Volksstaat-Erzähler” (7. 12. 1873—19. 12. 1875).

In 8 Bänden. Leipzig 1869—1876. Mit einer Einleitung und Bibliographie der Publikationen von Marx und Engels im “Volksstaat” von Erich Kundel. Insgesamt 3376 S. Nachdruck von Zentralantiquariat der DDR 1971.

￥190,000

日本総代理店 極東書店

東京都千代田区神田神保町2—2

大阪・京都・福岡

昭和46年11月 通巻第55号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1—15—5 藍沢ビル302号室 ☎ 271—6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371—5329